

年間指導計画と題材の配列一覧表

【5年】

指導時期	主題名	副主題名	指導内容	指導の観点
4月 交通安全	1 通学路での交通安全	1 集団での歩行	集団で歩行する際の注意点	登下校については下級生の安全を守る立場にいることを常に自覚させる。
		2 学校から帰るとき	寄り道には危険が潜むことの理解	寄り道をすると誘拐などの危険に陥ることがあることを理解させ、寄り道をさせない。
		3 天候が悪いとき	天候が悪いときの歩行の注意点の確認	雨や強風、雪の日は普段と異なる危険があることを理解させ、下級生の安全にも配慮できるようにさせる。
		4 ふみ切	踏切事故の原因の理解と安全な渡り方の確認	踏切の事故は命に関わる大きなものになることを理解させる。
5月 生活安全	2 家に着くまでの安全	1 地いきについて知ろう	地域の危険な箇所の確認	地域の安全マップをもとにして安全な場所と危険な場所を確認させる。
		2 学校からの帰り道	人の目の届かない路地の危険の理解	身近にある危険な場所を知り、安全な下校を心がけるようにさせる。
		3 ちゅう輪場・ちゅう車場・公園のき陰	身近にある人の目の届きにくいところの危険の確認	人の目の届きにくいところに立ち入ることの危険を理解させる。
		4 暗い夜道	暗くなってから帰宅する際の注意点	夜道を帰るときに注意することを考えさせる。
		5 家に入るとき	一人で自宅に帰るときの注意点	玄関を開ける瞬間が危険であることを理解させ、周囲の安全をはかれるようにさせる。
		6 エレベーターに乗るとき	エレベーターに乗るときの注意点	危険を感じたときはすぐに助けを呼べるようにさせる。
6月 生活安全	3 学校での安全	1 体育館	体育館の安全な利用の仕方の確認	体育館の利用のきまりや手続きを守って安全に利用できるよう徹底させる。
		2 家庭科の授業	家庭科での実習時における安全	裁縫や調理などを行う際に注意することを理解させ、安全に学習できるようにさせる。
		3 校舎のまわり	危険な行為によって生じる事故の回避	校舎の外の危険箇所や危険な行為と、不審者を発見したときの注意点を指導する。
		4 林間学校・りん海学校と移動教室	林間学校、臨海学校、移動教室での安全の確認	先生の指示をよく聞いて、まわりに迷惑をかけないように心がけさせる。
		5 宿舎で過ごすとき	宿舎における安全で規則正しい生活	楽しい宿泊だからこそ、きまりを守って安全に行動することを徹底させる。
7月 災害安全 生活安全	4 災害から身を守ろう	1 自然災害	自然災害による被害の確認	自然災害による被害の大きさについて考えさせ、身を守る態度を育成する。
	5 夏に注意すること	2 災害が起きたら	自然災害が発生したときの安全な行動と情報の重要性	自然災害が発生した際は、情報を入力して、二次災害も視野に入れつつ安全な行動をとれるようにさせる。
9月 災害安全	6 災害のけい報と注意報、ひなん	1 熱中しよう	熱中症の原因と応急手当	熱中症が起こりやすい状況を知るとともに、応急手当の方法を確認させる。
		2 野や山に出かけるとき	危険な動植物とアナフィラキシーショックの理解	野や山に出かける際の注意点を理解させ、危険を避けようとする態度を育成する。
		3 気象災害のけい報と注意報	注意報と警報の種類と気象災害の危険	注意報、警報、特別警報を理解させ、身を守る行動がとれるようにさせる。
		4 災害に備えて	災害に対する日頃からの準備の必要性の確認	日頃から防災意識をもつようになせ、被害を小さくともめようと努力する態度を育成する。
10月 生活安全	7 運動や遊びとけが	3 災害が起きたときの連らく	災害用伝言ダイヤルの使い方と家族との連絡のとり方	家族が集まったり、安否を確認するために、災害用伝言ダイヤルなどによって連絡がとれるようにさせる。
		4 ひなん所での生活	避難所でのルールやマナー、自分の役割の確認	避難所でのルールやマナー、自分の役割について考えさせる。
		1 校庭・運動場、体育・遊具し設	校内で起こるけがの実態の把握	校内で安全に過ごすために注意すべきことを考えさせる。
		2 体育の授業	正しい運動とルールの順守の必要性	誤った運動や無理な運動などが大きな事故につながることを理解させる。
11月 交通安全	8 自転車の安全	3 けがが起きやすいのはどんなとき?	けがの原因とけがが起こりやすい状況の理解	けがが起こりやすい状況について考えさせ、けがを防ぐための工夫ができるようにさせる。
		4 けがの手当	けがの手当の仕方	打撲・ねんざ、突き指、鼻血、やけどの手当の方法を確認させる。
		1 き陰の予測	自転車で走行する際の道路上にある危険の理解と予測	自転車で走行する際に注意すべきことを確認させ、潜む危険を予測できるようにさせる。
		2 右折の仕方	正しい右折の仕方の確認	信号機のある交差点と信号機のない交差点での安全な右折の仕方を確認させる。
		3 き陰な乗り方	乱暴な走り、違法な走行の危険性の確認	それぞれの場面でのような自転車の乗り方をしたらよいかを考えさせる。
		4 加害者になるき陰	人を傷つけないための正しい自転車の乗り方の確認	交通ルールを守り、周囲の安全に配慮した正しい乗り方ができるようにさせる。
12月 交通安全	9 乗り物の安全	5 自転車の安全点検	自転車の安全点検の仕方	点検を怠った自転車による事故を具体的に説明し、安全点検の重要性を確認させる。
		6 交通安全に必要な標識や標示	交通の安全を守るための標識や標示の確認	道路標識や標示のはたらきを理解させ、安全な走行に役立てることができるようさせる。
		1 自動車の直前・直後	駐車中、停車中の自動車の直前、直後の横断の危険の理解	駐車中、停車中の自動車の直前、直後を横断する際の危険を理解させる。
		2 自動車の死角	自動車の後方や左右の危険の確認	自動車の死角の意味や範囲を知り、事故の危険から身を守る方法を考えさせる。
1月 生活安全	10 地いき・家庭生活の安全	3 自動車の停止きより	自動車の停止距離を考慮した交通安全	自動車の停止距離を理解させ、飛び出しをしないことを徹底させる。
		4 乗り物を利用するとき	公共交通機関を利用する際のルールとシートベルトの着用	公共交通機関を安全に利用するためのルールとシートベルトの着用を徹底させる。
		1 遊びや運動をするとき	遊びや運動をしてはいけない危険な場所の理解	校外の遊び方についても上級生として下級生に配慮すべきであることを指導する。
		2 校外での学習	公共の場での歩き方についての注意	総合的な学習の時間など、グループ行動をするときの注意を話し合わせる。
		3 冬のき陰	凍った池や積もった雪などに潜む危険の確認	冬に特有の危険について理解させ、危険を避ける行動がとれるようにさせる。
		4 冬の交通事故	雪が積もった道を走行する自動車の危険の確認	自動車のスリップ事故に巻き込まれないように注意させるとともに、下級生の安全確保を考える態度を育成する。
		5 出かけるときは	外出時に家族に伝えるべきことなど、防犯のための行動の確認	防犯の観点から、外出時には家族に報告する習慣など、危険を避けるための行動を身につけさせる。
		6 はんか街のき陰	繁華街に潜む危険と注意点の確認	繁華街に潜む危険を理解させ、不用心に繁華街に行かないように指導を徹底する。
2月 生活安全	11 電話、インターネット、ゲーム	7 火事と初期消火	火事が起きたときの約束事と消火設備	火事の危険から身を守る方法を知るとともに、身のまわりの消火設備を確認させる。
		8 119番通報と防火の活動	防火活動、消火活動の理解と出火原因や火事の被害の確認	防火意識を高めさせるとともに、出火原因を知って火事を防ごうとする態度を育成する。
		1 けい帯電話のルールとマナー	携帯電話を使用するときの注意点の理解	周囲の人に迷惑をかけない携帯電話の使い方を確認させ、事故やトラブルにつながる使い方について考えさせる。
		2 不しん電話	不審な電話がかかってきたときの対応	不審な電話がかかってきたときの対応の仕方を確認させ、安全に配慮した対応ができるようにさせる。
		3 こんなメールに気をつけよう	携帯電話の危険な側面の理解	迷惑メールの危険を知ることによって、危険な状況に陥らないように注意する態度を育成する。
3月 災害安全	12 地しん	4 安心してメールやインターネットを使うために	インターネットの危険な側面の理解	迷惑メールや有害・危険なサイトをシャットアウトする方法を知り、安全に使用できるようにさせる。
		5 ゲームのトラブル	ゲームに関するトラブルの理解と対応	ゲームに関するトラブルを理解して、安全に仲よく遊ぶ方法を考えさせる。
		1 地しんが起きたら	地震が起きたときの身の守り方の確認	場所に応じた身の守り方を確認させ、安全な初期行動がとれるようにさせる。
		2 日本のおもな地しんのひ害の様子	地震の被害の大きさの理解とハザードマップによる危険の確認	地震の被害の様子を知って防災意識を高め、ハザードマップから具体的な危険箇所を指摘させる。
		3 きん急地しん速報	災害発生に関する情報の入手と活用	緊急地震速報などの災害に関する情報を入力し、避難行動をとるために有効に活用できるようにさせる。
		4 きん急地しん速報が発表されたら	入手した情報を生かした適切な行動の確認	緊急地震速報を入力したら、あわてずに、でも速やかに適切な避難行動がとれるようにさせる。
	学んだことをふり返ろう	5 地しんの後には、つ波が来る	二次災害に対する心がまえの必要の理解	津波の被害の大きさを知り、注意報や警報を避難に生かそうとする態度を育成する。
		6 つ波からひなんする	津波が大きくなるしくみと津波からの避難の仕方	津波が大きくなるしくみと津波の特徴を知り、安全な高台に避難できるようにさせる。
			1年間の振り返り	チェックポイントは重要な点なので、できなかったところを知り該当箇所を振り返らせる。